

# 問題解決的な学習とその評価の進め方について提案します！

## 1 研究の概要

### (1) 研究主題

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う道徳科の在り方  
—自己の成長を意識できる評価を取り入れた「考え、議論する」学習を通して—

### (2) 研究主題設定の趣旨

近年、子供を取り巻く環境は変化し、家庭や地域社会の教育力の低下、実体験の減少、自己肯定感や社会参画に対する意識・意欲の低下など様々な問題が生じています。中でも、昨今大きな社会問題となっているのがいじめの問題です。児童生徒は、道徳的価値に照らして「人をいじめることはいけないことである」ということを分かってはいるものの、様々な要因により、「いじめをやめる」「いじめをやめさせる」といった言動に結び付いていないという実態があります。それらの問題に対応し、よりよい生き方を目指す資質・能力を育成するために、学校における道徳教育に対する期待が高まっています。児童生徒が直面する様々な事象の中で、一人一人が多面的・多角的に考え、判断し、適切に行動する資質・能力を養うことが求められています。

こうした道徳教育の意義や課題を踏まえて出された教育再生実行会議の提言や中央教育審議会の答申を受け、「道徳の時間」を「特別の教科 道徳」（「道徳科」）として新たに位置付ける学習指導要領の一部改正が行われました。文部科学省の一部改正学習指導要領(平成27年3月告示)には、「特別の教科道徳」の目標として「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(中学校は『広い視野から』を追記)多面的・多角的に考え、自己の生き方(中学校は『人間としての生き方』)についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」と示されています。また、第2節道徳科の指導の中には、複数の道徳的価値が対立する問題や課題について、多面的・多角的に考察し、主体的に判断し、よりよく生きていくための資質・能力を養うことが大切であり、そのためには問題解決的な学習が重要であると述べられています。答えが1つではない道徳的な課題を一人一人の児童生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」「議論する道徳」へと転換を図っているのです。これらのことから、教師主導でねらいとする道徳的価値に迫っていく授業ではなく、児童生徒が直面する様々な事象の中で、状況を深く見つめ、多様な考えに接し、自分はどうすべきかを判断して行動するのか考えさせる児童生徒主体の授業に改善していくことが求められているといえます。

そこで、本研究では、物事を多様な側面から捉えたり、様々な角度から総合的に考察したりする活動を通して、自己の生き方(人間としての生き方)について多面的・多角的に考え、主体的に判断する児童生徒を育成する問題解決的な学習と道徳科の評価の進め方を探っていきます。このような活動を計画的、発展的に仕組んでいくことで道徳的実践を支える道徳的な判断力を育成することができ、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことにつながっていくと考えます。評価の進め方については、道徳アンケート、児童生徒のワークシートの記録等を基に探っていきます。

### (3) 研究の目標

自己の生き方(人間としての生き方)について多面的・多角的に考え、主体的に判断する児童生徒を育成する問題解決的な学習と自己の成長を意識できる評価の進め方を探る。

### (4) 研究の方法と内容

#### ○道徳的価値に関する道徳アンケートの実施と分析

問題解決的な学習の事前(5月)と事後(11月)に質問紙を用いた道徳アンケートを実施し、道徳的価値に対する意識の変容を分析しました。

#### ○問題解決的な学習における発問の設定の提案

問題解決的な学習における発問の設定について研究し、学習指導案の作成及び授業実践を行いました。実践を基に自己の生き方(人間としての生き方)について多面的・多角的に考え、主体的に判断する児童生徒を育成するための授業展開を提案しています。

#### ○道徳科の評価を提案

評価につなげることのできる道徳アンケートやワークシートを作成、実施することで児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握し、日常の指導や個別指導に生かせるような評価を提案しています。